

平成 28 年度第 1 回地方創生会議 会議録—意見要旨

日時 平成 28 年 5 月 11 日 10 : 00-12 : 30

場所 大台町役場大会議室

1. 出席者

- 委員 西村委員、野崎委員、小野議員、遠藤委員、森山委員、呉山委員（代理）、村上委員、余谷委員、野田委員、（欠席）大松委員、阿部委員
- 説明課長 谷産業室長、寺添産業課長、片田町民福祉課長、辻本企画課長、野呂教育課長、加藤生活環境課長、湯谷健康ほけん課長

2. 会議の進行

○H27 に実施をした先行型事業を中心として、各課長より総合戦略基本目標ごとに説明を行い、続いて委員より基本目標のテーマにそって実施事業などへの意見を頂戴した。

3. 委員意見要旨

- 基本目標 1 魅力あるしごと創り
 - 先行型事業 農産物等生産流通システム構築事業
 - 地域資源を活用した商品開発・販路開拓事業

村上委員（松阪公共職業安定所）

ハローワークの視点でいくと、地域資源を活用して開発した商品については、販路開拓、生産性の向上から雇用に結び付けていくことまでを、長期スパンで考えていくことが必要。その中で、大台町らしさを是非出してほしいと思う。

西村座長（三重大学）

ここでいう商品の定義を、定性的ではなく定量的な目的を持っていくことが必要ではないか。例えば、必要な年間売上額を 1 千万円に設定する、雇用に結びつけられる商品かなど。

遠藤委員（農業者）

野菜プロジェクトに参加したことで使われていなかった圃場が使われるようになり、いろんな野菜が作られるようになった。これまで使われていなかった田畑に、人が行き交うことで、農山村の風景もよくなったと感じる。

しかし、農産物は利益が上がりにくく、ちょっとしたことでやめてしまう。今後は、地域を回って声をかけるなど、スタート後のフォローが必要だと思う。

また、作るものや規模によって、作業効率を上げるなど問題点がそれぞれ異なるが、野菜勉強会を開催して人を集めるというよりも地域を回って個別にアドバイスなどするほうが有用。

産業課長

昨年度より、三重県の農業指導員の派遣を受けて、指導に当たってもらっているが、いつまでも在駐して頂けるわけではない。すぐには無理でも、道の駅の地域おこし協力隊を育てていきたいと思っており、できれば遠藤さんにも指導をお願いしたい。

森山委員（昴学園高校）

環境系列は、土木から農林系へシフトをしつつある。道の駅で販売していた椎茸生産者が全面撤退したことについては、色々な原因があると。今後、一緒に昴でやらせてもらえることがあれば検討したい。

西村座長

シイタケ栽培は、高齢でやめる前でも 350 万円の実需があったということは、やり方で更に収益を生む可能性がある。実践の場で新規就農者と高校生と一緒にやるプロジェクトなどインターンシップ的なこともやってはどうかと思う。

産業課長

道の駅だけでなく、宮川物産での農産物等の加工でも調査研究など協働して取り組んでいきたい。

副町長

菌床しいたけは、確かに高齢化が原因で撤退している。技術はあるが、設備の更新が多額であり、後継者がいないため投資分の回収が出来ない状況である。次につなげていけるのであれば、町でも一定の助成を出してでもやっていければいいと思っている。

西村座長

昴高校には協力隊が配置されている。現場との接点を協力隊が作っていければよい。高校生は現場が分かり、やるべきことがわかれば動き出す。

野崎委員（百五銀行）

商品開発 8 品目ということですが、ゴールへのストーリーを描いた上でいかに的を絞って取り組むか、販路をいかに拡大していくか、そのためにもプロモーションが大切になってくると思う。その際、エコパークを販路拡大のツールに利用していくことができる。

また、道の駅では、伊勢志摩サミットを契機に外国人を呼び込む施策についても、今後は取り組んでいくことが必要になってくるのではと思う。

産業課長

外国人は増えていないが、H28年度は、翻訳アプリ、HP、冊子などの多言語化に取り組み、外国人の方に来ていただける環境の整備はしていく。伊勢志摩へ来た方が、大台まで足を伸ばしていただけるパッケージについては、今後、観光協会を中心に考えていく。

西村座長

半ば強引にでも外国人を観光誘客する手法を考えれば、自発的に SNS で発信をしてくれる。工夫して大台らしさ、イメージを磨いていくことが重要。桑名市は、サミットもあり、昨年は 0 件だった外国人観光団体が今年は 50 件になった。そうすると、住民の方も、国際都市になったと思いはじめ。ちょっとしたきっかけで意識は変わってくるもの。

野田委員（移住者）

濃い大台町の体験とあわせて開発した商品がセットであるとよいのではと思った。先日登山に行ったときにタムシバの香りが印象的だったが、ただ店舗で売られているということ以上に、そこで販売されていると商品の価値が高くなるのではないかと。

実際、プロモーションが最も難しいと実感している。マーケティングなど企業の頭が必要で、選択と集中の中でしっかりとやっていくべきだと思う。マーケティング、プロモーションなど見えないところにしっかりとお金をかけ、本当に届けたい人に情報が届くようにしていくことができればと思う。

観光 DMO の登録を進めているが、個々での販売・PR をしている一方で、町全体のストーリーを創っていくことが必要。

西村座長

「一番」がないと人は来ない。そういう意味においても、例えば、エコパークはすごく大きな魅力である。

アジアからみれば日本はあこがれで、今はパッケージツアーではなく、個人ツアーが人気。森林で日本一、川で日本一、エコパークなどの 1 点抜けからスタートすること、こだわりを持って進めることが重要で、この誘導は町でしかできない部分である。

当面は、広くたくさん来てもらっても受け入れるキャパがないため、一点抜けでこだわりのもった PR をすることが有用であるように思う。

小野委員（子育て支援関係者）

商品開発は、いろんなメディアを活用して、大台町の目玉として効果的に発信していく

ことが必要。あわせて、町民の皆さんに知ってもらうことも大事だと思う。

西村座長

おっしゃるように、見せ方、伝え方はとても重要で、町の人みんなが使って、楽しんで、自慢していることは、外へ向けてのよいPRとなる。自分たちの町で、自分たちの商品を『育てる』『広める』ように意識を変えていくことが出来ればいいのではないか。一番のプロモーションは、意外と外ではなく自分たちかもしれない。

○基本目標2 魅力あるライフスタイルの構築

先行型事業 □小1プログラム解消プログラム実践事業

小野委員

アンケートで意見があった公園について早速行政が動いてくれていることが嬉しい。公園については、図書館も併設した一日遊べるような公園がほしいというお母さんがいる一方、地元で歩いていける公園がほしいといわれるお母さんもみえて、ニーズがバラバラである。身近な公園としては、保育園がニーズにあっているのではと思う。

子育て支援やサークルなどが充実しており、保育園入園前から子供同士がなじんでおり、入園に際しても子どもたちの適応がスムーズである。

副町長

公共施設の必要性を問うアンケートをしたが、公園の必要性は低いとの集計結果となっている。一方で自由記述欄には、公園が必要だという回答が多く出ている。

西村座長

大公園が町内に必要かは疑問。例えば、母親が幼児を連れて遊べる場、小学校低学年の児童が遊ぶ場とでは、状況が異なる。母親たちが子育ての中で最も困っていることと公園作りとのリンクも必要である。

町全域がエコパークになったということであれば、里山そのものが公園ではないのか。いろんな角度から整理をする中で考えていく必要がある。

野田委員

移住する場合、特に女性は、エコパークといわれても大自然の中で子育てが出来るかの不安があると思う。子どもを産み、育てられることの具体的なイメージが出来ることが重要。

野崎委員

住環境の整備、教育ということについては、人を増やすことにつながってくると思うが、その際に、エコパークを紐つけるのが良いと思う。大台町といえばエコパークなんだということ、言い続けることが大事。支店の中でも認識が薄い。まずは地元から広げていくこと。

プロモーションが大切ですが、その手段としては口コミが重要。スマホが大きなウエイトを占めており、町全域に wifi の整備ができれば町の特徴にもなる。

西村座長

そのあたりは世界標準でもある。併せて、エコパークをイメージできる、印象付ける工夫ができればと思う。

森山委員

ユネスコスクールとして町内の全小中高が登録されれば、どこにもない価値になる。持続可能な社会には大切なことでもあり、今年度中に、ユネスコスクールへの登録を進めたいと考えている。

西村座長

アジアでは、教育旅行に国が支援する場合がある。台湾などは受け入れ先を求めているケースもあり、ユネスコスクールの関係で毎年修学旅行に来てくれるのも 1 つの売りになる。

呉山委員

町の PR ポイントを絞ることができれば、そこを入り口にして次への広がりが出てくる。意識を統一することが出来ればと思う。

遠藤委員

公園に関して近所の方との間では、高齢の方が集まるイベントと子どもたちが集まるイベントを、例えば隣の会場にするなどしてはとの話となった。ちょっとした工夫で、交流を生むことへと繋げることができるのでは。

西村座長

町の中で、年齢関係なく知り合いの輪を広げることや、先ほどの婚活サポーターについても非常に面白い取り組みであると思う。人数が減っても役割を増やせば問題はない。

村上委員

ワークライフバランスは、ハローワークの課題でもあり、雇用の場と働きやすい環境を作っていくことが重要。公園については、山や川での体験を通じて学ぶことが大事で、情報発信も大切だが、受け取る側も見聞きして判断することが大切である。

西村座長

情報の発信の仕方によって受け取り方が違ってくる部分もあるが、客観的な視点を持つことが重要である。

○基本目標3 魅力と住みよいまちを発信し、ひとを惹きつける

先行型事業 移住促進事業

東紀州・奥伊勢・伊勢志摩周遊滞在促進事業

奥伊勢フォレストピアランドデザイン作成事業

総門山トレランプロデュース事業

大台町観光サップ購入事業

○基本目標4 将来像を見据えた地域づくりでまちの魅力を最大限に発揮する

村上委員

田舎暮らしを求めてくる方も増えているが、移住の最大のネックは雇用。スキルをどうかすか、賃金格差もあるが住みやすさとあわせて雇用を大きく発信していくことが必要。

西村座長

違う視点からになるが、こちらで雇用を生んだ場所に来てもらうという考え方以外に、どこでも生きていける人＝仕事を持ってくる人、ここだから稼げる仕事を起こせる人、場があって知恵を出して自分の力を発揮できる人などを探すことも考え方のひとつ。例えば、香料の調合師など。

ここで掴めるチャンスや素材を PR していく。ここに来たほうが、労働条件がよくなる人を探するという考え方で移住をすすめることもできる。

遠藤委員

トレランに期待している。マラソンやトレランは特徴的な取り組みであれば、どんなに遠くても人が集まってくる。

西村座長

エコパークを走れる、日本一きれいな水を育む山を走る、世界一トレーニングができる山など、特徴的なキャッチフレーズで人を呼び込めばよい。

例えば、まつりについても、ふるさと納税を納めれば参加できる役割をつくるなど、遊び心で楽しめばよい。

呉山委員

従業員が住まいを探しづらいと聞く。解決すべき課題のひとつだと思う。

森山委員

環境の充実では、バイオマス計画についてもどこまで実現することが出来るか分からないが、一緒に考えながら取り組みができればと思う。

産業室長

今は、フォレストピアへの導入を考えているが、昴高校でも間伐から寮の設備への熱源供給までを一貫して進めていければと考えている。

野崎委員

美杉で、最近移住者がジビエ料理店を始めたが、大台町も食材が豊富なのでそういうこともできるというのはPRとなる。

また、多気町にアクアイグニスができるが、隣町なのでバイオマスなどいろいろとタッグを組んでやっていければと思う。

西村座長

大黒屋が他市へと展開している店舗を地域食材のアンテナショップにできないか。例えば季節の地域食材を本店へいかないと食べられないというような誘導になるとよい。インバウンドの入り口にもなる。

アクアイグニスで言えば、バイオマス、山つながりでトレイルランニングなど、一定の規模感を持ってやることも考えていくとよいのでは。

野田委員

観光を産業にしたい。SUPについても、今は観光協会で行っているが、外からSUPを持ってきてできるまちへとしていきたい。

小野委員

これまで誰かがやってくれていたことも、若い人からお年寄りまで町の事業に関わってもらうことで、大台町を好きになり自分のやってきたことに誇りを持つことが出来るようになる。関わることの大切さについて考えた。

西村座長

町のことを思って自分で動くようになるというのは、町を維持していくためには、本当に大切なこと。

高齢者見守り事業の説明があったが、満足の仕方についての捉え方が少し違うのではないかな。お世話をしてもらうのが満足ではなく、周囲と関わりを持ち、役割があることで満足につながるのではと思う。これからは、田舎ほどケアが必要になるのかも知れない。